

主な所見

肝臓

■嚢胞

嚢胞とは液体の貯まった袋のようなものです。肝臓・腎臓などの臓器に発生します。無症状・無害・病的意義のないものがほとんどですが、大きなものは他の臓器圧迫したり炎症をおこしたりすることがある為、治療が必要な場合もあります。

■脂肪肝

肝臓の細胞の脂肪がたまった状態です。主な原因はアルコール・食生活の乱れ・肥満などです。脂肪肝の改善のために生活習慣の改善をしましょう。

■肝血管腫

細い血管が無数にからみあってできた腫瘤状のかたまりです。良性の腫瘍で症状もなく治療の必要はありません。はじめて見つかった場合や大きいものは精密検査が必要な場合があります。

胆嚢

■胆石

ほとんどが無症状ですが上腹部や右側腹部に痛みを認めることがあります。症状が出現した場合は治療が必要ですが、症状のないものは経過観察が一般的です。

■胆嚢ポリープ

急速に増大するものや1cmを超えるものはがんや腺腫の可能性があるので精密検査が必要になります。

■胆嚢腺筋症

胆嚢の壁が全体あるいは部分的に肥厚する病変でそれ自体は無症状のことがほとんどで治療を要することはありません。形状によっては胆嚢がんとの鑑別が必要になります。

脾臓

■脾腫

脾臓が腫大した病態のことを指します。主な原因は血液や肝臓疾患ですが、体格の大きさに比例しているだけで病的意義のない場合もあります。

■副脾

本来ならば1つのはずの脾臓が生まれつき複数個存在するものです。何ら病的意義はありません。

腎臓

■石灰化・結石

尿の成分が結晶化し、かたまりになっている状態です。痛みなどの症状がなければ経過観察が一般的です。1cm以上など大きくなる場合、痛みや腎機能に影響を与える場合など受診が必要になることもあります。

■腎血管筋脂肪腫

血管・平滑筋・脂肪成分からなる良性の腫瘍です。無症状の場合がほとんどで基本的に治療をする必要はありません。大きさによってはまれに破裂などの危険性もある為、経過観察をしていきます。

■水腎症

腎臓で作られた尿の流れがせきとめられて、尿の通り道や腎臓の中に尿がたまって拡張した状態です。程度や原因によっては、再検査や精密検査となります。

■馬蹄腎

腎臓の下の部分が中央に寄り合って、U字型にくっついてしまった形態です。無症状の方は治療を要することはありませんが、尿の通過障害をおこすこともありますので経過観察をおすすめします。

■重複腎盂

腎臓の外形は正常で、腎盂と尿管が2つあるもの。尿路感染症や水腎症などを合併していなければ特に治療の対象になることはないので、経過観察します。

■膵臓

膵臓にできる腫瘍は悪性のものから良性のものまで様々です。特に膵臓にできる嚢胞性病変には完全に良性のもの（主には炎症のあとにできる）や腫瘍性膵嚢胞（良性から悪性への段階をふむもの）もあり、慎重な見極めが必要となります。このため、膵臓に病変があると診断された場合は専門施設での精密検査をおすすめします。